

こくりにゆうだより



大阪府立池田高等学校 2年 進藤 凧紗
「もうすぐクリスマス、おいしいケーキとプレゼントが楽しみですわね!」



今後のイベント情報

※場所の記載がないものはとよなか国際交流センターで開催します。



世界を食べよう

ルーマニアのおいしい話
12月18日(土) 10:30~12:00

ルーマニア出身の講師による食文化の話。

定員: 15人(要申込・先着順)

参加費: 無料

申込: 12月11日(土)までに電話・来館・メールにて受付。

オンライン哲学カフェ

「顔って見せないといけないの?」
12月11日(土)14:00~15:45

川崎唯史さんの進行で、上記のテーマについて語り合う。

※ウェブ会議システムzoonを使用します。

定員: 10人(要申込・先着順)

参加費: 無料

申込: 12月9日(木)までにメールにて受付。

おまつり地球一周クラブ

ネパールを知ろう
12月25日(土)10:30~12:00

ネパールにルーツをもつ若者による母国の話と交流。

対象: 小・中学生

定員: 10人(要申込・先着順)

参加費: 無料

申込: 12月21日(火)までに電話・来館・メールにて受付。

おまつり地球一周クラブ ～ベトナムを知ろう！～



10月30日（土）、おまつり地球一周クラブ「ベトナムを知ろう！」を開催しました。豊中市在住のベトナム人はこの数年でかなり増加していることもあり、当日参加する子どもたちにはベトナムを身近に感じ関心を持ってもらいたい、と計画しました。今回の講師はベトナム出身のトゥエットさん。そして、甲南女子大学からのインターン生が企画・当日運営に関わりました。

写真や動画を交えて、講師から、ベトナムの文化紹介やベトナムで有名な「すいかの話」（すいかが広く食べられるようになったきっかけのお話）等を教えてもらいました。「ベトナムの小学校は日本よりも早く始まり遅く終わる」ことを聞くと、子どもたちは「ベトナムの子どもは大変！」と驚き、ベトナム料理の写真を見ると「食べたことある！」「どうやって作るの？」等、思い思いに素直な感想や質問を伝え、講師と楽しくやり取りをしていました。

また、ベトナムで作られた雑貨やおもちゃ、民族衣装、ベトナム語で書かれている絵本を準備していただきました。子どもたちは自由に手に取り、「ベトナム語はアルファベットにひげが生えてるみたい」「トンボのおもちゃがかわいい」等の声がありました。

「xin chào（シンチャオ）！」（ベトナム語のあいさつ。朝昼晩通して使える。）と緊張感の中始まったイベントでしたが、最後の「シンチャオ！」では子どもたちは笑顔一杯で元気にあいさつをしてくれました。今後も子どもたちが体験を通して外国について知ることができるイベントを企画していきます。

12月はネパール編です！是非ご参加ください。（協会職員・大庭みゆき）



講師のトゥエットさんと甲南女子大学からのインターン生の二人



バンブーダンス体験。初めての子どもたちも軽やかに飛んでいました



ベトナムの絵本に興味津々

まるわかりセミナー フィンランド編 を開催しました



写真を交えてお話ししました



フィンランドに関する書籍やDVDも展示しました

10月23日（土）、「聴いてなっとク！まるわかりセミナー・フィンランド編」を開催しました。本企画は、例年実施していた「まるわかりセミナー」の初の海外編として多くの方にお申し込みいただきました。

また、とよなか国際交流センターにてインターンをしている大学生・大学院生もチラシの作成から当日の司会・受付まで運営に関わりました。

セミナーでは、フィンランドでの在学・在職経験のある職員（山本房代）より、主にフィンランドの教育、子育て、マイノリティについてお話ししました。フィンランドの手厚い教育・福祉の背景には、国への信頼やトライ&エラー（失敗してもまた別の道を探せばいいというような考え方）の文化などがあるのでは、という話には共感された方も多かったようです。

参加者の中には、フィンランド滞在経験者、これからフィンランドに行こうと思っておられる方、フィンランドの言語や民族などに興味をお持ちの方などもおられ、質疑応答の時間は参加した人たちの多様な背景や興味関心をみてとることができました。

なお、本セミナーは、9月に予定しておりましたが、諸事情により10月開催とさせていただきます。9月にお申し込みいただいた皆様を対象に実施致しました。延期した日程にもかかわらず、お越しいただいた皆様、ありがとうございました。（協会職員・山本房代）



「ちょっとだけでも、社会に余白が欲しいなあ、という気分」

協会事業（哲学カフェ、プロジェクト“さんかふえ”等）に参加していた辻明典さんが、2013年度より故郷である福島県南相馬市に戻り、教員をしています。辻さんからの福島からの便りをどうぞ。

哲学とは、それぞれの哲学者の人間的な所産であり、哲学者は、他の肉と骨の人間に向かって話す
同じ肉と骨の人間なのだ。彼が何をしようと勝手だが、理性のみで哲学をするのではなく、意思、感情、
肉と骨、魂のすべてと肉体のすべてをもって哲学するのだ。要するに、人間が哲学するのである。

(ミゲル・デ・ウナムーノ『生の悲劇的感情』より)

約10年前に初めて読んだ、スペインの思想家であるウナムーノの著書『生の悲劇的感情』のなかの言葉です。私にとって、大切な言葉です。哲学とは、机上の空論ではなくて、具体的な人との交わりの中でこそ、立ち上がってくるものです。初めて哲学に触れた頃の初心に立ち返らせてくれます。だから僭越ながら、ウナムーノと同じように、私にとっても、「哲学」は「人間的な所産」であり、とりわけ「書く」という行為は、生きることと重なりあう、大切な営みだと感じています。だからお恥ずかしながら拙稿も、生きることが重なり合うように、書き綴られるように、努めたいと思っています。

この原稿を綴りはじめる、一月ほど前のことだったでしょうか。何を思いたったのか、自分でもわからないのですが、無性に、もう一度この目で見てみたい、という思いに駆られて、地元ちよんの小さな山の、登山口まで出かけることにしました。

十数年ぶりかもしれません。子供の頃に、家族や親戚に連れられて登った小さな山です。最後にここに出かけたのは、高校生の頃だったでしょうか。一人で自転車をこぎ、登山道入り口まで向かっていたのですが、途中で猿の群れと遭遇してしまいました。ボス猿でしょうか、深遠な目つきで、じっと私のことを睨みつけていたことを覚えています。臆病だった私は、山を登りたい思いに駆られながらも、怖気付いてしまって、しかし登山への思いは断ち切れず、しばらくそこでじっとしたのですが、結局はボス猿の作り出した雰囲気に飲まれてしまい、後ずさりして、坂道を降りることにしたのです。



そんなことを思い出していたからか、もう秋口なので、道中、猿ばかりではなく、熊にも会わないようにしなければと、鈴を鳴らしながら、坂道を自転車で駆け登りました。幸いにも動物と出会うことはありませんでした。案の定、登山口から階段を上ると、山道は藪に覆われていて、どこが元々の道だったのかも、よくわかりませんでした。

ここは原発事故によって、放射性物質が多く降り注いだ地域なので、人の出入りも減り、山は荒れ果ててしまったのでしょうか。かつて、ここは、恵みに満ちた山でした。子どもの頃の記憶ですが、よく覚えています。ここで祖父母たちは山菜を山ほど採り、それが食卓に並ぶことが何度もありました。

今は、もうそれすらもかきません。当然のことながら、ここで山菜を採ることはお勧めできません。口にすれば、内部被曝の恐れがあるからです。咀嚼された山菜が、身体の内部に留まり、そこから放射線を放ち、内側から肉体を蝕んでしまうでしょう。

歩きながら、写真を撮りたくなりました。しかも、カラーではなく、モノクロで撮りたくなったのです。私なりの理由はあります。「この世界は、情報の波に溺れている。」という思いが、漠然とあるからです。

インターネットや、ソーシャルメディアの発達、世界の各地の人々を、「人間的な意味」で、つなげたのでしょうか。隔たりを乗り越えさせたのでしょうか。人と人の距離を縮め、分断を修復したのでしょうか。「いや、違う。」と私は思っています。むしろ、人々を隔て、分断を深めてしまったのではないのでしょうか。

何よりもメディアは、人間から想像する力を失わせてしまいました。いや、より正確に言うと、想像力を減退させてしまった。そんな気持ちを捨て去ることができません。だからこそ私は、想像力を鍛え直したいと思いました。モノクロの写真は、想像力を働かせてくれます。カラー写真にはない、力が隠されています。色がないぶん、写真に写らなかったものを想像する余地が生まれます。つまり、見る人を少しだけ、人を能動的にさせてくれるのです。

【告知】 12/11(土) オンライン哲学カフェを開催します

「哲学カフェ」は、参加した人がそれぞれの経験や考えを出し合う、対話の時間です。いわゆる「哲学」の知識はいりません。進行役とともに、テーマについて少し立ち止まって考え、言葉にしてみることで、他の人の考えに耳を傾けることを通して、ゆっくりと対話を楽しんでみませんか？

今回のテーマは「顔って見せないといけないの?」。

新型コロナウイルスの流行以来、マスクを着けて顔が半分見えないことに慣れていたり、オンラインでのコミュニケーションが増えていたりする現在、あらためて「顔って見せないといけないの?」を参加者のみなさんと考えてみたいと思います。

今回は昨年度に続き、オンラインでの開催です。イベント詳細は表紙ページ下部をご覧ください。

みなさんのご参加をお待ちしています!(協会職員・石田みどり)



2021

12月の事業開催カレンダー

※コロナウイルス感染症対策のため、予告なく変更となる場合があります。
記載のない定例事業については、とよなか国際交流協会にお問い合わせください。

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
29 相談	30 相談	01 休館日	02 千里 木ひる にこにこ 相談 オンライン	03 金あさ にこにこ 相談 こんぱす	04 相談	05 ※1 がちゃ
06 もつと 相談	07 おやこ 相談 こんぱす	08 休館日	09 千里 木ひる にこにこ 相談 オンライン	10 金あさ にこにこ 相談 こんぱす	11 相談 オンライン哲学カフェ 14:00~15:45※zoom	12 がちゃ 母語 サンプル 若者 南部
13 もつと 相談	14 おやこ 相談 こんぱす	15 休館日	16 千里 木ひる にこにこ 相談 オンライン	17 金あさ にこにこ 相談 こんぱす	18 つどい 相談 世界を食べよう 10:30~12:00 外国人向けセミナー 14:00~15:30	19 がちゃ サンプル 若者 南部
20 もつと 相談	21 相談 こんぱす	22 休館日	23 千里 にこにこ 相談 オンライン	24 金あさ にこにこ 相談 こんぱす	25 相談 おまつり地球一周クラブ 10:30~12:00	26 がちゃ 母語 サンプル 若者 南部
27 相談	28 相談	29 休館日	30 休館日	31 休館日 ※~1/3(月)まで休館	01	02

※1 2021年11月~2022年11月末は大規模空調設備工事のため貸室がご利用いただけません。それに伴い、すべての貸室利用を中止いたします。
◆赤字表記の活動については、活動内容を変更している場合があります。詳しい情報については、とよなか国際交流協会へお問い合わせください。

センターが主催する定例事業

月曜日	もつともつとつかえるにほんご ※ひらがな・かたかなが書ける人が対象 外国人のための多言語相談	10:00~12:00 11:00~16:00
火曜日	おやこでにほんご(千里・岡町・庄内の各図書館で実施) 外国人のための多言語相談 学習日本語こんぱす	10:00~12:00 11:00~16:00 17:00~19:00
木曜日	とよなかにほんご・木ひる 多文化こども保育にこにこ 千里にほんご(千里文化センターコラボで実施) 外国人のための多言語相談 オンライン日本語	13:30~15:20 13:30~15:30 10:00~11:30 11:00~16:00 19:00~20:00
金曜日	とよなかにほんご・金あさ 多文化こども保育にこにこ 外国人のための多言語相談 学習日本語こんぱす	10:30~12:00 10:30~12:00 11:00~16:00 17:00~19:00
土曜日	韓国・朝鮮のことばとあそびのつどい ※毎月第3土曜日のみ 外国人のための多言語相談	9:30~11:30 11:00~16:00
日曜日	にちょうがちゃがちゃだん こども母語※第2,4日曜日のみ 学習支援サンプルイス 若者のたまりば 南部にほんご(庄内公民館で実施)	10:00~12:00 10:00~12:00 13:00~15:00 17:00~20:00 13:00~15:00

今月のピックアップ

外国人向けセミナー 老後について考えよう

介護保険や年金制度の勉強会を開催します。
(資料は日本語のほか、英語、中国語、韓国・朝鮮語、フィリピン語で準備。講座は日本語で実施)

日時: 2021年12月18日(土) 14:00~15:30
場所: とよなか国際交流センター
対象: テーマに関心のある外国人
定員: 15人(申込先着順)
参加費: 無料
申込: 電話・来館・メールにて受付。
協会ウェブサイトからも申込可。

とよなか国際交流センターおしらせ

「こくりゆうだより」第152号(2021年12月号)

発行元・問い合わせ: (公財)とよなか国際交流協会
住所: 〒560-0026 大阪府豊中市玉井町1丁目1-1エトレ豊中6F
(阪急宝塚線豊中駅すぐ)
開館時間: 9:00~21:30(貸室受付は17:30まで、水曜休館)
TEL: 06-6843-4343 FAX: 06-6843-4375
E-Mail: atom.s@azaq.jp WEB: http://www.a-atom.s.info/

多言語情報も配信しています!

SNSも随時更新中!

「とよなか国際交流センター」で検索!

